

バスケットボール選手のポジション特性別スポーツビジョンの研究

The different characteristics of sports vision a study on basketball players in relation to their positions

1K04B140-6

谷 愛貴

指導教員

主査 宝田雄大先生

副査 倉石平先生

【緒言】

球技ではゲームセンスという言葉がよく聞かれる。とくに球技のなかでも、ボールの移動速度が早いサッカーやバスケットボールでは、頻繁にゲームセンスという表現が使われる。本研究では、バスケットボール競技のポイントガード(司令塔)は、試合中に現象を熟知する目で全体の位置関係、時空間の把握ができ、僅かでも攻められるスペースを常に探せなければいけない。つまり、フォワード、センターよりもスポーツビジョン能力が高いということが考えられる。という仮説を立てポジション特性別に四項目を比較し、現在のバスケットボールにどれだけスポーツビジョンが必要か検証してみたいと思う。

【方法】

早稲田大学バスケットボール部の男女 55 名(男子 25 名、女子 25 名)が被験者として本研究に参加した。測定はアシックスがスポーツビジョンの第一人者である石垣尚男監修で作成した SPEESION というパソコン用視覚能力測定ソフトを用い、「動体視力」、「眼球運動」、「周辺視野」、「瞬間視」の四項目を測定した。今回の研究ではバスケットボール部員それぞれの今現在持っている能力が知りたかったため、練習はせず、1 回のみ測定した。

【結果・考察】

ポイントガード、シューティングガードは「動体視力」が他のポジションの選手よりも有意に高かった。ポイントガード、シューティングガードの中でも身長の高いプレーヤーのほうが良い結果であった。このことから考えられることはボールを保持、扱っている時間が長いプレーヤーは結果が良いということが考えられる。これはポジション特性を見れば一目瞭然である。

また、フォワードのポジション特性が強く出ている項目もあった。それは、「周辺視野」である。フォワードポジションのプレーヤーはポイントゲッターにあたる。ボールを目で追いながら味方、敵の位置を把握し尚且つボールを持っているときは自ら攻めるというプレーをするためには少なからず「周辺視野」という能力が必要である。また、「瞬間視」もポイントガードが他のポジションよりも有意に高かった。だが他のポジションも高い結果を出しており、全体的にいい結果であった。バスケットボール競技では近くを見てすぐ遠くに焦点を合わせなければいけない。この能力は全体的に高いが、やはり「動体視力」、「周辺視野」を同様にポジションの中でも身長の高いプレーヤーのほうが有意に高かった。ただ「眼球運動」に関しては静止した状態で目だけを動かしてプレーするということはほとんどないのでこの結果に関しては身長の高いプレーヤーがいいという結果は出なかった。

【まとめ】

選手のなかには目の機能が劣っていても他の要素で、それを補って優秀な成績を残している人も多数いる。このように考えると、たしかに目はスポーツにおいて重要だが、あきらかな視力低下をのぞき、目は競技成績を決定的にするものではなく、それを導く要素の一つと考えるのが妥当だと思われる。スポーツにおける目の重要性を正しく評価するには、今後多くの分野からの科学的な研究をする必要があると言える。スポーツビジョンはまだ未知なる物で研究するべきものも多くある。今後普段の練習で当たり前のようにスポーツビジョントレーニングをする日を迎えるためには、もっとスポーツビジョンというものを世の中に広めていく必要がある。

